

6-1 検証結果【清掃・消毒】

避難所運営本部（R1丸森町対口支援）の経験者によると

「1日2回、10個以上の個室トイレを含め、避難所全体の清掃を実施していたが、数人がかりで長時間掛かり、避難所運営のうち最も多大な業務負担のひとつだった。」

との意見があったため、効果的で効率的な清掃は、避難所運営に欠かせないものとして検証した。

避難所の清掃・消毒に関する検証

1. 床の清掃用具

体育館備え付けのモップではなく、清掃後に廃棄できる使い捨てのドライシートとウエットシートを使用した。

2. 消毒効果のある界面活性剤の確認

経済産業省が公表している新型コロナウイルスの消毒に効果があるとされた界面活性剤の成分が含まれているものを使用した。

体育館の清掃の効率化を図るため、「フローリング対応」、「二度拭き不要」の住宅用洗剤を使用した。商品によっては、二度拭きが必要であったり、使用禁止の素材があるため、必ず使用方法を確認する必要がある。

住宅用洗剤を使用して接触頻度が高い場所の拭き掃除についても実施した。

3. 清掃時の服装

清掃は、感染リスクの高い作業であるため、マスク、目の防護、飛沫の防護、ゴム手袋を着けて検証した。

避難所にガウンの備蓄が無い場合は、ゴミ袋で代用することも可能。

その場合、腕が出るので、清掃後に洗うことができるよう肘から先は何も身につけないことが望ましい。

※ 眼鏡やエプロンでの代替の検討（再掲 2-1 検証結果【検温スペース】）

猛暑時ではガウンの内側に熱がこもり、寒冷時にはフェイスシールドが曇るなどにより、ストレスが高くなり、集中が途切れ、安全への意識が薄れ、着用しなかったときよりも安全性や作業効率が下がることがある。

検証においても受付対応や清掃の際、フェイスシールドの内側が曇って見えにくくなったとき、無意識に手でフェイスシールドの内側の曇りをぬぐっている場面が見られた。

また、ゴミ袋の内側が蒸れて服が体に張り付き、清掃中のゴム手袋のまま、内側の服を触る場面も見られた。

公益社団法人日本医師会「新型コロナウイルス感染症時代の避難所マニュアル第1版」によると、ゴーグル、フェイスシールドは目を覆うものであれば眼鏡でも代用は可能（ただし、再利用のものは使用後に適切に消毒を行う）とされており、また、ガウンについてもエプロンなどでの代用は可能だが、腕部分が露出するため、汚染されても洗浄できるよう肘から下は衣類を含めて何も身につけないことが望ましいとされている。

個人の判断で防護を選択させるのではなく、災害対策本部と保健医療調整本部と連携し、防護を着けることでのストレスと作業内容や安全面のバランスを検討して、防護の種類とその場合の注意事項を指示する必要がある。

4. 避難者との協力

広い体育館をスタッフだけで清掃することは負担が大きいことから、避難者自ら避難所の衛生環境を保つよう、当番表などにより共助の協力を促した。

専門家の指導・課題

1. 清掃時のゴム手袋を介した感染拡大防止

清掃時に「自分はゴム手袋をしているから大丈夫」といって、ドアノブやスイッチなどを触ってしまうと、そのことが原因で感染が広がることから、『ゴム手袋は汚れている（汚染されている）』との認識を持って清掃するように注意喚起が必要。

2. ホコリが立たない掃除の徹底

ホコリを舞い上げると感染リスクが高くなるため、ホコリを舞い上げない掃除をする必要がある。

掃除機はホコリを舞い上げるため使用しない。

体育館などにある大きめのモップもゴミを落とすときにホコリを舞い上げるため推奨しない。

使い捨てのシート型の清掃用具であればホコリを舞い上げずに掃除ができ、使用後は廃棄できるため、感染防止の上で有効である。

ただし、体育館の広さに対して非常に小さいことから、避難者の協力が欠かせない。

避難者のプライベート空間は、各自で掃除ができるように、清掃用具は多めに準備できるよう備蓄の検討が必要。

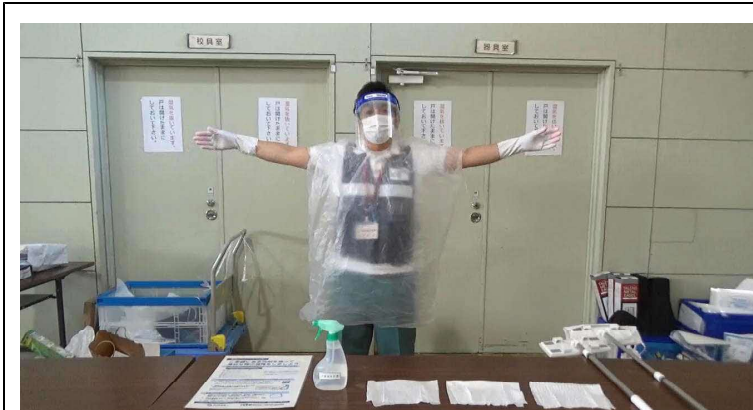
3. 材質に合わせた洗剤の使用

経済産業省では、新型コロナウイルスに対して消毒効果のある界面活性剤と具体的な商品名を公表している。

フローリングのほか、畳やカーペットなど、材質に応じた消毒効果のある界面活性剤で清掃を実施する。

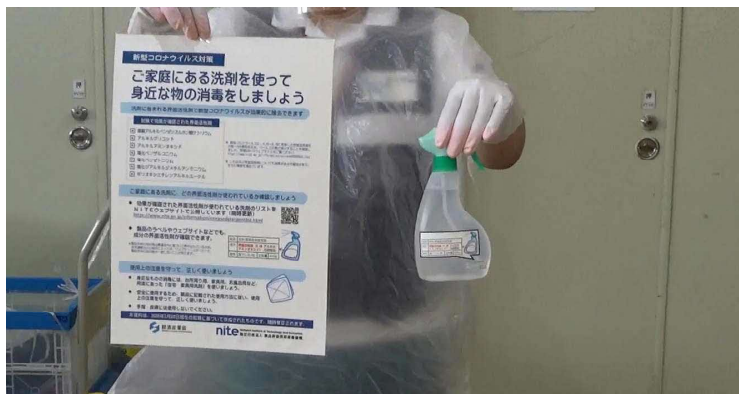
なお、壁や天井など大規模な清掃、消毒は必要ない。

6-2 検証状況【清掃・消毒 写真等】



○清掃時の防護

マスク、目の防護（フェイスシールド）、飛沫の防護（ゴミ袋）、ゴム手袋（消毒、再利用）を着ける。



○消毒効果のある界面活性剤を使用

新型コロナウイルスの消毒効果のある界面活性剤が含まれている商品を確認

二度拭き不要、フローリング対応を確認



○使い捨てシートを使用した清掃



○接触機会の多い場所の表示

住宅用洗剤でこまめに拭き掃除を行う箇所

6-3 次亜塩素酸ナトリウムの希釈展示

【専門家の指導】

1. 用途に応じた希釈

濃度が濃いからといって消毒効果がより高くなるわけではない。使用用途に応じて適切に希釈することが大事。

2 効果のある消毒薬の選択

アルコールは、新型コロナウイルスには有効である。

次亜塩素酸ナトリウムは、新型コロナウイルス、ノロウイルス、B型肝炎ウイルス、つまり血液の消毒にも有効である。

消毒する対象を確認して効果のある消毒薬を使用することが必要。

3. 用意するもの

塩素系漂白剤

水入りのペットボトル（今回は2リットルで作成）

油性ペン

ラベル（養生テープで代用）

4. 希釈、清掃する際の防護

塩素濃度の高い液体を扱うため、マスク、ゴーグル（フェイスシールド等）、ゴム手袋、ガウン（または長袖）を着ける。

5 濃度の確認

次亜塩素酸ナトリウムは、時間とともに徐々に濃度が低くなるため、厚生労働省のポスターなどを参考に濃度を確認して希釈しなければ期待する消毒効果は得られない。

6. 使用上の注意

誤って飲んでしまう事故が多いため、必ずラベルに『希釈した日』、『塩素系消毒液 0.05%』のように具体的に記載してペットボトルに貼り付ける。

希釈した次亜塩素酸ナトリウムは、時間とともに消毒の効果が薄くなるため、使い切りとして作り置きはしない。

7. 使用方法

ウェットシートなど廃棄できる物に消毒液を染みこませ、拭き掃除を実施。

金属を腐食させるため、その後、水拭きを行う。



6-4 臨時手洗い場所の設置

【専門家の指導】

1. 断水時の手洗い

20リットルの水のポリタンクを使用して臨時の手洗い場を設定した場合、20リットルでは頻繁に交換する必要がある。

特に水害による断水では、泥で汚れていることが多く、流水での手洗いが難しいため、感染リスクが高くなる。

飲み水のほか、衛生環境、感染防止にも水は不可欠であり、断水時の給水車等の手配は急ぐ必要がある。

2. 接触感染防止の表示

手を拭き終わったペーパータオルを利用して蛇口を閉めることは接触感染防止に有効であるため、そのことを表示して周知することも大切である。

なお、蛇口は共用部分となるため、こまめな消毒も必要である。



3. ゴミ箱の設置場所

屋外に手洗い場を設けた場合、ペーパータオルとゴミ箱も必要となるが、ゴミ箱が風で倒れ、使用済みのティッシュ等が飛散することが予想される。

使用済みのティッシュは感染リスクが高いことから、ゴミ箱は、倒れたり、ゴミが飛散しない場所に設置する必要がある。

4. 接触頻度の高い場所でのウェットシートなどの設置

必ず接触するドアノブは、その直近にウェットシートなどをぶら下げておくことで、直接ドアノブに触らずに操作できるようにしても良い。

